平成12年度第2回川崎市事業評価検討委員会 記 録

日　時　　平成12年8月2日（水）
　　13時30分から16時30分まで
場　所　　いさご会館 第1，第2会議室

＜開　会＞
（川崎市挨拶）
＜議　　事＞
1. 報　告
○　平成12年度再評価実施事業について
（川崎市）　再評価の対象事業について説明を行う。

○　平成11年度審議結果をふまえた取り組みについて

（　市　）　建設局より説明を行う。

○　第1回開催の主要な意見等について
（　市　）　事務局より説明を行う。
2. 審　議
○ 街路事業
（　市　）　街路事業全体計画概要の説明を行う。
（　市　）　再評価実施事業　野川柿生線（王禅寺）について説明を行う。
（委　員）　都市計画決定はいつか。また，その後，着手までの間どういう経過があったのか。
（　市　）　ほとんどの都市計画道路が，昭和20年代に都市計画決定を行っているが，人口が集中している川崎区，幸区から優先的に進めてきたため，北部は，何十年かたった後に着手している。
（委　員）　ニーズが高まってきて，道路整備が必要となる時には，用地買収費がかかってしまうことからもう少し前に何かできないものか。
（　市　）　都市計画決定後，大臣承認を取得し，一定の限られた財源の中で，プライオリティをたて整備していくことから，何十年かたった後の整備となっている。
（会　長）　もともと12年かけての計画で，10年たって30%の進捗ということは，一般的な川崎市の進捗からみて普通なのか遅れているのか。
（　市　）　全体では56%であるが，本件は36%ということで若干遅れている。
（会　長）　いくつかの路線から選択する場合，計画論から言うと，どこかを集中的に投資するとできあがった周辺に開発が進んでいくということになるので，結果的には，先に整備するところに集中,集積の傾向が生まれてしまう。

都市計画決定の考え方でいうと，一番やりやすく安価なところから投資すると既得権のある人達が心配になるので都市計画で競争的に事業に協力してもらうというのがねらいの背景にもある。
実際には，既成市街地から進めるといつでもコストが高くなった状態で後追いでやっていくことになるので，川崎市全体としての計画的な進め方というよりは，川崎区周辺が優先順位が高くて，整備が遅れている麻生区王禅寺などが，遅れてしまうことになってきたが，新しいところを先行的に進めていたらもっと違ったまちづくりの形になったかもしれない。これは，川崎市だけの話ではなくて，全国どこでもそういう傾向にある。都市計画決定しているのなら進みやすいところから整備して，新たな投資がどんどん進んでいくというように既得権を移すという考え方もある。
どちらが先かということを政治的に決めていこうとすると，どうしても優先順位の高いところとなって，計画はいらなかったということになるので，自然の流れにまかせておいたらそのまま流れてしまうので，あえて計画を策定し，ある方向に向けようというのが計画だろう。一番大事なところをやらなければいけないというのはよくわかるが，これからの方針として，何か一点集中で全体として路線工事区間をわけたとしても全体として路線が早く進み，協力が得られやすいところを優先しますというような宣言が，都市計画決定している中である程度必要な時期になっているので，改めてこの部分については，全体の計画の中で議論があってもいいのではないか。
全体としてのコストも安くなるし勿論議会の話もあるが，政治に関わる人達にも計画の意味はこうなんだといって進める方がいいのではないか。

（委　員）　10 年間で 6 億円ということは，一路線あたりの年間事業量はどの位になるのか。

（　市　）　現在，16 路線に着手しており年間の総事業費では約 70 億円です。

（委　員）　これではなかなかつながらないという感じですね。

（会　長）　対象区域の受けとめ方として，集中的に設定するのと区域を広げるのではどちらがよいのか。
道路のネットワーク効果でいうとつながる方が良いが。

（　市　）　街路事業の中ではラダー型を形成する尻手黒川線を集中的に整備している。
5,6 年で完成させていきたいが，認可後限られた財源をふまえ進めている。

（委　員）　ヨネッティ，60 周年記念公園は供用しているのか。

（　市　）　両方とも供用しているが，60 周年記念公園は拡大整備を行っている。

（委　員）　ヨネッティと 60 周年記念公園，王禅寺小学校の供用時期はいつか。また，これらの施設ができることから，この整備を行うというわけではないのか。

（　市　）　そういうわけでもない。

（　市　）　各施設の供用時期については，ヨネッティが平成 2 年 3 月オープン，60 周年記念公園が平成元年から一部供用開始，王禅寺小学校が昭和 54 年 4 月に開校されている。

（委　員）　用地未買収部分はどのくらいか。
（　市　）　取得率は平成 12 年の 3 月現在で 48%となっている。
（委　員）　王禅寺の下の開発はいつからか。
（　市　）　昭和 40 年代からです。
（会　長）　工事中ということは，ほとんど用地買収中ということで，コストを高めている。それは，その間に進められなかったことや土地利用できなかったことでの費用になっていることを意識するともう少し違った感覚になる。なかなか広い道になっていかないということがどういうところに迷惑をかけていたりとか，どんどん人口が急増してボトルネックになるということとか，まして工事期間中に事故が起こったりすることというのはマイナス要因である。
用地買収のための地権者調整が大変だということが，公共工事の期間が延びることの説明になっているが，本当に財政状況が厳しいときに地権者の広域の調整の仕方を守ってもいいのかという気がする。神奈川県でも同じ意見がでていて厳しい議論になっている。
これまでと同じようなことをやっていこうとすると，予算は半額になっていて事業規模が同じであれば一つ一つの事業期間が二倍に伸びてしまうことは目に見えているので，今のままのやり方で進められるかどうかを真剣に考えなければいけなくなってきている。
地権者の利益がそこなわれていいのかという議論もあるが，そこなわれるのはもう一つ予算が無いから進みませんということで，事業の手法をＰＦＩとか民間の資金を借りてでもいいから整備すると，その土地利用が進んでいって固定資産税収入,都市計画税収入とか別の税収を期待できるようなことを規定して思い切ってある種の債券発行を考えるべきだし，今までと同じ方法での道路整備がいいのかどうかというと少し心配になってしまう。
各区別に計画延長，完成延長，進捗率が書いてある表がはいっているが，麻生区は進捗率が低くて，川崎区がすごく高いと思っていたらそうでもなくて，これで見ると宮前区が東名関連でできたのかもしれないが，国の大きな事業に必ず広域につなげなければいけないということになってきて予算をつけてしまうと宮前区は早く進捗してしまうのかなと，この議論をすすめていくと，地域内の路線，特に麻生区のような広域のところでなく地域の利便性を高めるところは基本的に遅くなってしまう。広域で他の東京,横浜地域とかの連携とかもっと広域の高速道路連携みたいなところに接続するところが早く進んでいくということでいうと，地域が自分達の所はできなくて国に近い所が進むのか。
（委　員）　宮前区は区画整理ではないか。
（委　員）　菅早野線，横浜上麻生線についての話があったが，図面を見ると菅早野線を先に整備した方が良かったのではないか。
（　市　）　横浜市では，東名インターの関係で整備を急いでいる。川崎市では横浜上麻生線，野川柿生線，菅早野線で交通の分散を図り，それぞれ，街路事業と道

路事業により整備を行っている。

（委　員）　両方に分かれる所の整備が中途半端になるより片方を完成させた方が良いのではないだろうか。

（　市　）　一極集中して整備を早める事は勿論考えているが，地元住民とのことなども考えるとなかなか難しいところもあるのが現状です。

（会　長）　2 路線を同時に整備するよりも，1 路線を重点的に整備する方が，効果が得やすいのではないか。

2 路線を同時に行うか 1 路線を重点的に行うかは，選択の余地があると思うが，事業者がどちらを選択するか戦略的に進める方法についても検討する必要がある。

（委　員）　野川柿生線，菅早野線どちらにどういうふうに投資するかが問題なので，本来ならば予算をどちらにつければ有効かという議論をした方が良い。

限られた財源の中で，10 年後になったらできあがるというのも方法だが，とりあえず 1 本だけでもちゃんとやろうという選択の方が効果としてはわかりやすい気がする。

対象区間ではないようだが，こういう場合にはいろいろ競合する。関連する道路を一緒に考えていた方が本来的な事業効果になるのではないか。

（会　長）　情報が総合的に必要になる。路線の重点化にあたっては，計画道路沿いの公共施設などの関連施設に考慮して総合的に判断していく必要がある。

（委　員）　調書では，事業概要はわかるが，再評価するための重要性や，市全体での位置付け，必要性がわかりにくい。

（　市　）　建設省の定まった様式にのっとっている。

○ 河川事業

（　市　）　河川全体計画概要の説明を行う。

（　市　）　再評価実施事業都市基盤河川改修事業（二ヶ領ふるさと整備）の説明を行う。

（委　員）　治水安全度 1/1.5 とはどういう意味か。

（　市　）　1.5 ヶ年に 1 回降るであろう大雨の確立の意味であり，50㎜ だと 1/3，75㎜ だと 1/15，90㎜ だと 1/30 となります。

（会　長）　ふるさと整備とは，河川整備の中でどのような位置づけのものか。

（　市　）　今までは，利水・治水を目的とした整備が中心であり，親水化や住民と接する川づくりの制度がない中で，親水性をもたせたものでは初めてである。準用河川である上流部 1,200mについては，ふるさと整備の先取りの形で単独費にて整備した。その後，今回の部分をふるさとの川整備事業として施工した。その後は多自然型の川づくりとして進めている。

（会　長）　二ヶ領本川の台和橋下流整備については。

（　市　）　通常の改修の範囲である。

（会　長）　平瀬川の整備については。

（　市　）　通常事業で単独費を投入している。

蛇行していた河川を改修し，余った土地を整備しており，廃河川敷を利用している。

（会　長）　二ヶ領用水の整備については。

（　市　）　単独費で，ふるさとの川整備事業の前に行った。

（会　長）　最終的には河川全部を親水化整備するのか。

（　市　）　しません。二ヶ領はもともと用水で，治水機能を持たない河川なので自由につくれた。

（会　長）　同様の親水性を持った公園的なものの全体計画があるのか。

（　市　）　全体計画はない。親水整備のような空間を有するものは計画論そのものが難しい。治水機能を持たない用水では今後も進めていくが，計画論は難しい。

（　市　）　平瀬川支川については，多自然型河川で補助を受け，整備を進めていく。
親水護岸整備済個所は，ほとんど治水機能を担わないため，可能であった。
また，スポット的な整備は廃河川敷などで行っている。治水目的では同様の整備は困難である。

（委　員）　7 年間で補助金が約 6 億 3,000 万円，年間 9,000 万円であるが。

（　市　）　その他に県費補助も 6 億 3,000 万円あります。

（委　員）　治水安全度 1/1.5 程度のレベルで，補助金を投入する必要があったのか。

（　市　）　400 年の歴史を持つ二ヶ領本川については，人々の関心が高く，「三面張り改修ではなく親水性を考慮した改修は出来ないか」という声が大きかった。

（会　長）　改修も含めて整備をしているなかで，どうして 1／1.5 なのか。

（　市　）　下流が 35㎜/h のため 1/1.5 になるが，将来 90㎜/h への対応も考慮してある。
山下川という普通河川の合流点から上流は，流域を持たない。最上流は多摩川の上河原取水堰で，大雨の時は取水ゲートを閉める。

（委　員）　浸水実績図はあるのか。

（　市　）　昭和 51 年集中豪雨の浸水実績図はある。下流部の世田谷町田線交差点の多摩警察署付近が冠水した。上流部は大丈夫であった。

（委　員）　関連事業の遅れとは。

（　市　）　都市計画道路中野島生田線の橋本橋の用地取得の遅延によりすり付け部として 26m残った。
河川改修で橋梁架け替えも検討したが，都市計画道路であり，道路拡幅も伴うことから，街路事業を待つこととした。

（委　員）　都市計画道路との調整で遅れているということか。

（　市　）　当初の街路事業の工事着手の時期はわからなかったが，整合を図るため，街路事業と調整するため，待つこととした。河川事業も早まったことも影響している。

（会　長）　河川改修としては終わりなのか。
また，更に河川幅を広げることはないのか。

（　市　）　残り 26mを残し河川改修は完成していると考えられる。しかし，残り区間の景観，親水整備が出来ていない。

（会　長）　事業を延伸するのでなく，ずっと待っているのか。

（　市　）　平成 8 年に都市計画道路中野島生田線の事業認可を取得し，道路と河川の整合性を図っていたが，河川工事の進捗が早まってしまった。しかし，あと 3 年で橋本橋架け替えに着手出来るので，地元へも配慮して待つことにした。

（会　長）　橋の上流側は完成しているのか。

（　市　）　完成している。

（会　長）　橋の架け替えが遅くなるのに，整備を進めたのか。

（　市　）　当時は中野島生田線の事業化という話は無かった。ふるさと整備の着手時もなかった。当初は河川の方で橋の架け替えを予定していた。桁下断面は能力的にはあるが，桁がＨＷＬを少しおかしており，阻害要素がある。中野島生田線の事業により，その進捗と整合を図ることにした。

（委　員）　スポーツゾーン等の関連区域は。

二ヶ領本川等治水対策協議会とは。

（　市　）　スポーツ施設は民間施設で完成済み。

教育施設，公園施設については市施行で，用地交渉を持った経緯があるが，地権者が長期営農を希望して，生産緑地の指定を受けている。

二ヶ領本川等治水対策協議会については，多摩区の生田，長沢地区の 98 町会長により組織され，二ヶ領本川，五反田川，平瀬川の恒久的な治水対策等の促進を図ることを目的としている。

昭和 50 年代には水害が多かったため，組織された経緯がある。

（会　長）　河川の維持管理について，地元の取り組み状況は。

（　市　）　この地域での取り組みはない。

平瀬川流域では活発で商店会，学校などで積極的に河川清掃を行っている。

住民参加の河川改修により地域の活性化を図り，まちづくりを行っている。

（会　長）　河川については予定より早く出来ており，市民からの評価も高く，地元でも清掃等をしていて，良い効果を得ている。問題があるとは思えなく，継続というのではなく，終了に近いという認識である。

（委　員）　長期化というより，順調に進んでいて最後の詰めでタイミングを見計らっている。このへんは評価というのでなく，何かあっても良いのではないか。

3 年間事業費がついていないが，大丈夫か。

（　市　）　予算については，「ふるさとの川整備」でなく，二ヶ領本川，平瀬川というつけかたをしている。

（会　長）　予算のつけ方については，2，3 年空いているので，きちんと整理して，またその方が効率的であるということを説明し，残事業については，都市計画道路中野島生田線の橋梁の整備等に合わせて実施すること。

○　審議結果について

（会　長）　3 つの事業を調書に基づき審議を行ってきたが，港湾，河川事業の 2 つについては，ほぼ予定通りに進んでいるという感じで，街路についてはその必要性

はわかるが，進め方として補完的に進める事業や重点的に進める事業というようにどちらかを集中的にやるような，事業者として戦略的に事業を進める必要性がある。というようなことを附帯意見として付け加え，3 つの事業を「継続」として判断してよろしいでしょうか。（委員了承）
それでは，他の議事ということで事務局より説明願います。

○　審議資料の公表について
（　市　）　第 1 回，第 2 回開催概要の公表内容について説明を行う。
（会　長）　各委員の皆様，他になにかございませんか。
なければ本日をもって平成 12 年度事業評価検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＜閉　　会＞
（川崎市挨拶）